

1	監査等の種類	随時監査
2	監査の対象	水路改良工事（東村中排水路）
3	監査の着眼点	令和6年度 工事監査実施計画（以下「実施計画」という。） に定める着眼点による
4	監査の実施場所	実施計画に定める実施場所
5	監査の日程	令和6年11月28日～令和7年2月12日
6	監査の結果	令和6年度 工事監査結果報告書のとおり

令和6年度 工事監査結果報告書

1 監査の対象

(1) 名称

水路改良工事（東村中排水路）

(2) 事業目的

平成24年4月に東川手公民館付近で排水路の溢水により浸水被害が発生したため、排水基本計画に基づき、東村中排水路の流下能力向上を図り、地区の浸水被害を解消するものである。

(3) 概要

別紙のとおり

2 監査の期間

令和6年11月28日から令和7年2月12日まで

3 監査の方法

岐阜市監査基準に準拠し、令和6年度工事監査実施計画を策定し、監査を実施した。

令和6年度において施工中の工事のうち、土木工事1件を監査の対象工事として選定し、工事の計画、調査、設計、仕様、積算、契約、施工管理、監理（監督）、試験、検査等が適正かつ効率的に執行されているかについて調査するため、書類調査を行い、令和7年1月17日に現地調査を行うとともに、関係職員等に対して説明を求めた。

なお、工事技術面の調査については、公益社団法人 大阪技術振興協会との工事技術調査業務委託契約に基づき、技術士の派遣を求め、書類調査及び現地調査を行った。

4 技術士の「総評」「所見」の概要

(1) 総評

書類調査、現地調査について、大項目毎に所見を記述する。

設計図書に関する書類調査について、次の2点を確認の上、対応されたい。

- ・実施設計報告書では計画流量算定条件として1/6～1/7年確率降雨強度（R）の記述があり、この根拠の説明を求めたが回答に苦慮されていた。工事担当部署の担当者は、工事施工のみならず造成構造物の形式・構造・規模に係る根拠の理解に努められたい。
- ・開渠工構造図（図面番号 5）の鉄筋加工図において、主筋 W1 の鉄筋径 D16 を D13 と誤記されていた。早急に協議し安定構造物の造成に留意されたい。

積算に係る書類調査では、おおむね適切であり工事数量、積算について特に問題はなかった。

施工管理に関する書類については、必要書類が適切に作成されており、施工管理・監理状況は良好であった。

現地調査における工事施工状況、安全管理状況は良好である。国道 21 号高架道路ランプ近接の工事であり、通過車両に万全の安全注意を払い、無事故での工事完了を目指されたい。

(2) 所見

ア 書類調査

(ア) 設計図書に係る書類について

a 的確に作成されているか。

設計に使用した図書は、最新版を適用していた。

設計図面は、位置図・平面図、縦横断図、構造図・配筋図、仮設平面図等の 19 葉であり、工事施工に必要な設計図が適切に作成されていた。

なお、開渠工構造図（図面番号 5）において、断面配筋図の鉄筋番号 W1 の鉄筋加工図鉄筋径が D13 となっていたが D16 の間違いであり、開渠部鉄筋組立作業段階までに、監督職員は現場代理人に表示ミスの所在を連絡し、安定な構造物造成を図られたい。

- b コスト削減意識を反映した設計となっているか。

次のように、コストへの配慮及び維持管理への配慮が検討されていた。

- (a) 効率的、経済的設計

函渠工には、施工期間の短縮のためプレキャストボックスを採用していた。

現場打U型水路の基礎材には、再生砕石を適用しコスト削減を図っていた。

函渠工の基礎処理工法の選定に当たり、1 案：置換基礎工法（軟弱な基礎地盤を良質土に置き換え）と2 案：セメント混合改良工法（軟弱な基礎地盤をセメント混合改良により固化処理）の比較検討により、経済性（直接工事費率は2 案 1.00 に対し1 案 1.60）から2 案のセメント混合改良工法を採用していた。

- (b) 施設の長寿命化、ライフサイクルコスト

一般的なプレキャストボックス、U型水路の施工であり、特段の長寿命化、ライフサイクルコスト削減対策はなかった。

- (c) 比較検討（新技術、新工法の採用）

岐阜国道事務所との協議により、ランプの通過交通を確保しながら工事を進めるため、工事範囲を狭くできる鋼矢板土留め工法を採用しており、仮設土留工法の選択は適切であった。

- (イ) 積算に関する書類について

- a 数量、金額は正確か。また、その算出根拠は明確か。

工事数量は、土工、水路工、排水工、舗装工、道路附属物工、防護柵工、区画線工、交通安全施設復旧工、雑工、構造物撤去工、仮設工の工種毎に適切に計上され、施工計画書工程表に食い違いなく適切に転記されていた。

- b 諸経費は適切に算出されているか。

諸経費は、共通仮設費は積み上げ及び率計上、現場経費と一般管理

費については率計上としていた。また、各経費比率は国土交通省土木工事標準積算基準書に準拠しており、適切であった。

(ウ) 施工管理に関係する書類について

a 工事施工計画は適切か。

施工体制台帳、施工体系図が適切に作成され、提出されていた。

施工計画書は、岐阜県建設工事共通仕様書に準拠し、必要項目を漏れなく記述すると共に、(14) 法定休日・所定休日（週休二日制の導入）の項目を追加し、適切に作成され提出されていた。

また、本事業は、週休2日制モデル工事により発注された工事であり、「岐阜市週休2日制モデル工事実施要領」に基づき実施するものとし、施工計画書（2）計画工程表において、4週8休制で工程表を計画し、安全作業指示書・工事安全日誌を使用し日々記録する旨を記載している。実施記録として、令和6年11月の週休2日制モデル工事（現場閉所）実績書を確認したところ、適切に実施されていた。

b 各種承諾図書、工事記録写真等の請負人提出書類は整備されているか。

建設リサイクル法による特定建設資材の搬入及び再生資源の搬出について、「再生資源利用計画書」、「再生資源利用促進計画書」を施工計画書（p12-1～）で確認すると共に、現場掲示板に計画書掲示を確認した。

工事段階は、各種協議、準備工を終え、開渠工・函渠工（下流側）の掘削工事完了、函渠工基礎工配筋段階であり、躯体工事が未施工であるため躯体工事に係る各種承諾図書、工事記録写真の調査は割愛した。

(エ) 使用材料承認及び試験検査等に関係する書類について

a 各種検査、材料試験等は適正に行われているか。また、その記録は整備されているか。

工事進捗状況は、開渠工、函渠工（下流側）仮設土留め、掘削工事

を終えて、開渠区間は均しコンクリート施工、函渠工（下流側）区間は基礎コンクリート配筋施工の段階であった。監査時点では、施工計画に記載される品質管理項目を含む工程を施工していないため、材料試験等の適正な実施に係る検査は割愛した。

（オ）その他

排水路としての整備水準は、実施設計報告書では計画流量算定条件として 1/6～1/7 年確率降雨強度(R)の記述があり、この根拠の説明を求めたが回答に苦慮されている様子であった。各種資料検索の結果、昭和 9 年の公共下水道認可に向け、明治 35 年からの降雨観測記録より 1/10 年確率降雨強度を採用していたが、近年の降雨観測記録を含めた統計処理により、従前の 1/10 年確率は 1/6～1/7 年確率に相当するとの説明があった。

工事担当部署の担当者は、工事施工のみならず造成構造物の形式・構造・規模に係る根拠の理解に努められたい。

イ 現場調査

（ア）工事施工状況について

a 設計図書どおり施工されているか。

調査当日の工事進捗状況は、開渠工区間は仮設土留め及び掘削工事完了状況であり、函渠工（下流側）区間は仮設土留め及び掘削完了、基礎コンクリート部鉄筋組立完了の状況であった。

躯体はこれからの施工であり、調査段階までの工事では、設計図面にに基づき適切に施工されていた。

b 法令等を遵守して施工されているか。

施工現場は比較的余裕のない狭小な区域であり、現場事務所は工事現場東側の空き地にあり、事務所前に法令で定められた各種文書（労災保険関係成立票、建退協加入証、有資格者・作業主任者一覧表他）を掲げた立て看板が適切に設置されていた。

事務所内には、必要な文書類がファイル綴じで適切に保管されていた。

また、現場には工事用立て看板で工事内容の明示があり、法令で定められた各種文書（建設業の許可証、施工体系図、再生資源利用計画書・促進計画書他）が適切に掲示されていた。

さらに、SDG s の取組として、現場環境改善モデル工事、建設業の働き方改革取組工事であることが掲示されていた。

c 諸材料の保管は適切に行われているか。

調査段階までに必要な工事用資材は、土留用鋼矢板、函渠基礎工鉄筋であるが、資材ストックヤードが無いため、現場保管を少なくし、日施工量に合わせた資材搬入とすることで施工しているとのことであった。

(イ) 安全管理状況について

a 現場の安全管理は適切に行われているか。

現場では、カラーコーン、単管バリケード、プラスチックフェンス等による仮囲いが適切に設置されていた。

b 現場周辺住民等への工事災害防止対策等は適切に行われているか。

現場で、施工計画書（7）主要機械に記載の低騒音排ガス規制のバックホー0.45を確認した。

現場代理人への聞取りでは、掘削作業時の「周辺住民からの騒音等に対する苦情はない」とのことであった。

5 本工事に係る契約事務

(1) 契約の方法

本工事に係る契約は、一般競争入札により締結されている。本工事の設計金額からすると、岐阜市一般競争入札等実施要綱第2条により、本工事に係る契約は、一般競争入札によることとされており、契約の方法は適正と認められた。

(2) 契約の締結

契約書には契約金額に応じた収入印紙が貼付され、消印されていた。その他関係書類も整備されていると認められた。

6 監査の結果

書類調査、現場調査並びに技術士の総評及び所見を踏まえ、監査を実施した結果、本工事は、おおむね適正に執行されているものと認められた。

なお、軽微な事項については、別途指示した。

工事の概要

- 1 工 事 名 水路改良工事（東村中排水路）
- 2 工 事 場 所 岐阜市東川手 2 丁目地内
- 3 工 事 内 容 施工延長 L=28.6m
開渠工 B1400×H1700 L=10.0m
函渠工 B1400×H1700 L=13.1m
1 号接続柵工 N=1 式
- 4 設計受託者 大同コンサルタンツ株式会社
- 5 工 事 監 理 直営
- 6 工 事 費 請負金額 76,450,000 円（消費税及び地方消費税を含む。）
- 7 入 札 令和 6 年 8 月 3 0 日
一般競争入札（総合評価落札方式）
（入札参加数 8 者、うち辞退 6 者、入札回数 1 回）
- 8 工 期 令和 6 年 9 月 2 7 日～令和 7 年 3 月 1 4 日
- 9 週休 2 日制モデル工事 適用（現場閉所）
- 10 受 注 者 永井建設株式会社
現場代理人：山内 公人
監理技術者：山内 公人
- 11 工事進捗率 計画出来高 28.8% 実施出来高 25.3%（令和 6 年 1 2 月 3 1 日現在）
- 12 工事監督員 総括監督職員 基盤整備部 河川課
主査 上瀧 功史
一般監督職員 基盤整備部 河川課
副主査 山田 基司